

○ブドウ、モモ、スモモの生産量日本一を維持し、果樹農家の収益性を向上させるためには、消費者ニーズに応じた新品種を導入し、安定的に生産・出荷することが求められている。

○このため、県オリジナル品種を中心とした有望品種について、栽培技術の確立と、出荷量の拡大による産地化を推進する必要がある。

○令和2年度には、県オリジナル品種である「ブラックキング」と「夢みずき」の**出荷量は145tを超えた**。

具体的な成果

普及指導員の活動

○ブドウ「ブラックキング」の出荷
各地域における生育状況や果実品質を確認した。また、出荷量が増加した。

出荷量 令和元年 1t → 令和2年 6.5t

○モモ「夢みずき」の生産拡大
課題となる「生理落果」について、摘果や袋かけ管理の時期等が理解された。また、出荷量が大幅に増加した。

出荷量 令和元年 40t → 令和2年 140t

○シャインマスカットの生産安定
・「シャインマスカットの栽培管理のポイント（R3版）」が作成され**5,000部**が農家に配布された。
・「ハウスシャインマスカット」については、普通加温および半加温の生育日数、灌水時期の見直しを行い、栽培者に提供した。

○モモ新品種「夢桃果」の産地化
各地域での果実品質の把握、収穫適期の検討を行った。また、苗木総本数が増加した。



苗木総本数 令和元年 1,880本 → 令和2年 4,332本

○山梨県オリジナル品種ブランド化推進協議会への参画
県オリジナル品種の普及定着、ブランド化・販売促進、また、新品種候補の検討を行うとともに、苗木の配布について支援した。

○ぶどう「ブラックキング」、もも新品種「夢桃果」の地域における栽培特性の把握
気象条件の異なる4地域に栽培実証圃を設置し、生育状況や果実品質を確認した。

○モモ「夢みずき」栽培の現地指導
収穫適期の徹底と管理指導を行った。

○「シャインマスカット」の生産安定
「シャインマスカットの栽培管理のポイント（R3版）」について試験研究機関と連携し見直しを支援した。

○「ハウスシャインマスカット」の加温体系の検討
試験研究と連携し、普通加温、半加温の2体系を見直しを行い、JAをとおして栽培者に指導した。

普及指導員（農業革新支援専門員） だからできたこと

・連携体制を構築した取り組みを行い、専門技術を活かし優良事例を掴む中で、地域に適した栽培方法を定着させることが可能であった。

活動主体	果樹試験場 農業革新支援スタッフ	執筆者	石原雅広
タイトル	果樹優良品種の導入による産地ブランドの確立		

1 活動の背景

もも、ぶどう、すももの生産量日本一を維持し、果樹産地として儲かる果樹農業を推進するためには、消費者ニーズを踏まえ、本県に適した新品種を安定的に生産していくことが重要となります。

このためには、本県のオリジナル品種や新たな有望品種について、栽培技術の確立を早急に図り、産地化を推進していく急務となっています。また、ぶどう「シャインマスカット」も全国的にも生産量は増加し、産地間の競争は激化していることから、主要産地として、高品質果実の安定生産に向けて取り組みを進めました。

2 活動の経過

県オリジナル品種の普及・定着と「シャインマスカット」の安定生産に向け、各産地を管轄する地域普及センター、試験研究部門、J A、行政各課等と連携を図り進めました。

(1) 山梨県オリジナル品種ブランド化推進協議会への参画

J A全農やまなしが事務局となる協議会に参画し、県オリジナル品種の普及定着、ブランド化・販売促進、また、新品種候補の検討を行うとともに、苗木の配布について支援を行いました。

(2) 県オリジナル品種ぶどう「ブラックキング」（品種名：甲斐ベリー3）の地域における栽培特性の把握

甲府市、南アルプス市、笛吹市、甲州市に各1ヵ所の栽培実証圃を設置し、生育状況や果実品質の確認を行いました。

(3) 県オリジナル品種もも「夢みずき」栽培の現地指導

甲州市、笛吹市において、収穫適期の徹底と管理指導を行いました。

(4) 県オリジナル品種もも「夢桃香」（品種名：甲斐トウ果17）の地域における栽培特性の把握

南アルプス市、笛吹市、甲州市の4ヵ所に栽培管理実証圃を設置し、農務事務所普及指導員と収穫適期の把握、果実品質の調査を行いました。

(5) オリジナル品種栽培管理研修会の開催

新品種の栽培管理技術の普及に向け、J A営農指導員、各農務事務所普及指導員を対象に研修会を開催しました。

- ・「ブラックキング」：摘粒、収穫期の果房状況、整枝剪定
- ・「夢みずき」：収穫適期把握
- ・「夢桃香」：収穫期の状況
- ・ぶどう「甲斐ベリー7」：房作り、摘粒、収穫期の果房状況

(6) 「シャインマスカット」の生産安定

J A全農やまなしが作成する「シャインマスカットの栽培管理のポイント」につい

て試験研究と連携して見直しを支援しました。

(7) ハウス「シャインマスカット」の加温体系の検討

試験研究と連携し、普通加温、半加温の2体系を見直し、JAを通してハウス「シャインマスカット」栽培者に説明会を開催しました。



「甲斐ベリー7」研修会



「夢桃香」研修会

3 活動の成果

(1) ぶどう「ブラックキング」の出荷、

各地域における果実品質を確認した。県内では6.5tが出荷された。

県内への苗木総配布本数はR2年度末で16,628本となった。

(2) もも「夢みずき」の生産拡大

生理落果への対応について、最終摘果は袋掛け時（満開後60日以降）に実施するように指導しました。出荷量は約140tとなりました（R1：40t、H30：25.6t）

(3) 「シャインマスカット」の安定生産

「シャインマスカットの栽培管理のポイント（R3年版）」が作成され、5,000部が県内の農家に配布されることとなりました。

ハウス「シャインマスカット」については、普通加温および半加温での生育日数、灌水時期の見直しが行われ、栽培者に提供することができました。

(4) もも新品種「夢桃香」の産地化

各地域での果実品質が把握され、収穫適期の検討が行われました。R2年度末の苗木総本数は、4,332本となりました。（R1：1,800本）

(5) 「甲斐ベリー7」について、営農指導員、普及指導員への研修会・視察、更に農業者への一般公開も実施され、甲斐ベリー7の栽培について情報提供されました。

4 次年度の取り組み

引き続き関係機関、試験研究と連携し、果樹優良導入品種の栽培技術の確立・普及、生産安定、産地化に向けた取り組みを支援していきます。

特に、もも「夢みずき」「夢桃香」、ぶどう「ブラックキング」の産地化に向け取り組むとともに、ぶどう「甲斐ベリー7」の栽培技術確立に向けた検討も行っていきます。